

学習内容報告書 フォーマット

学校名	青森市立北小学校
授業者	森 三佳子

1. 単元計画

1-1. 単元名

陸奥湾探検隊

1-2. 学年

5 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

児童にとって身近な海である陸奥湾について調査・学習会を行い、陸奥湾には多くの生物が生息し、それらを採ったり、養殖したりしていることを理解する。その中でも、地域の海では、ホタテ貝の養殖が盛んで、地場産業となっていることを知る。ホタテガイの生態や養殖方法について調査することを通して、これからのホタテガイ養殖について考え、分かったことをプレゼンテーションソフトにまとめて発信し、地域の海への愛着を深め、環境を含めたこれからの陸奥湾について考える。

～主な学習活動～

- 陸奥湾の概要について知る。
- 陸奥湾で採れる生き物について調べる。
- 陸奥湾で行われるホタテガイの養殖について知る。
 - ・青森市水産振興センターの職員によるホタテガイについての学習会
(ホタテの生態や豆知識・ホタテの養殖・高水温の影響、ホタテガイの解剖・観察、ホタテガイの稚貝の貝殻を使ったしおり作り)
- 陸奥湾で採れる生き物について調べたことまとめ、発表会を行う。
- 陸奥湾の現状とこれからの課題と解決策について考える。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

児童は毎年、地引き網体験を学区の漁業者や関係機関職員とともにしている。身近に海があるものの、そこで採れる生き物や漁業の仕事について、前年度までに学習した内容以外には詳細を知らないという実態がある。そこで、身近な海である陸奥湾に生息するホタテガイなどの生態や養殖の仕方、活用の仕方を知ること、陸奥湾に関する理解やこれからの環境保全について理解を深めさせたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・身近な環境に興味・関心を持ち、調べたい課題を設定し、見通しを持って追究する力。
- ・収集した情報をもとに考え、感じたことを工夫してまとめる力。
- ・青森の自然の素晴らしさと陸奥湾との関わりを理解し、自分たちにできることを実行しようとする態度。

1-7. 単元の展開 (全 35 時間)

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 ↳ 1 2 時	<p>陸奥湾に棲む生き物を知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸奥湾の概要について調べる。 ・興味を持った生き物を選んで、その生態や特徴を調べ、分かったことをワークシートにメモする。 ・地引き網体験を行い、感想を書く。 ・Google スライドにまとめ、発表会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・陸奥湾の概要については、調べる資料を提示する。また、全員で同じ資料を活用するほかに、インターネットを用いて、調べることができるようにする。 <p>【教】「おさかな自慢図鑑」「続 おさかな自慢図鑑」 著：青森水産振興課 「魚 新版」 著：井田 齊、松沢 陽士</p> <p>【教】使用アプリ：Google スライド</p> <p>【外】奥内漁業研究会、青森市水産振興センター</p> <p>【評】自分で選んだ生き物について、分かりやすくまとめることができたか。</p>
1 3 ↳ 2 7 時	<p>ホタテガイの養殖について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホタテガイと養殖の仕方について、知っていることや疑問点を話し合う。 ・ホタテの生態などについて知る。 ・ホタテガイの養殖の様子について知る。 ・ホタテガイの活用の仕方について知る。 (ホタテガイの解剖体験、稚貝の貝殻を使ったしおり作り) ・分かったことをもとに、これからのホタテガイの養殖や漁業について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の話し合いでは、素直な疑問を出し合うことで、これからの調査・見学の見通しを持たせる。また、質問事項は、あらかじめ施設に知らせる。 ・まとめる前に、分かったことから工夫や苦勞・努力に気付かせ、まとめられるようにする。 <p>【教】青森市水産振興センターの提供資料</p> <p>【外】青森市水産振興センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青森市農林水産部水産振興センター職員の協力によるホタテガイの解剖、稚貝の貝殻を使ったしおりづくりをする。 <p>【教】使用アプリ：Google Jamboard</p> <p>【評】調査をして分かったことをまとめるとともに、海に携わる人々の工夫や苦勞・努力に気付くことができたか。</p>
2 8 ↳ 3 5 時	<p>ホタテガイの養殖のこれからについて考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸奥湾のホタテガイ養殖の現状を確認する。 ・ホタテガイ養殖の課題を話し合う。 ・課題に対する解決策を話し合う。 ・自分たちにできることをまとめる。 ・ホタテガイの養殖のこれからについて、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習で分かったことや、ホタテガイの養殖に携わる人々の苦勞をもとに課題を見つけさせ、課題解決への糸口を考えるとともに、自分たちにできることを考えさせる。 <p>【教】使用アプリ：Google Jamboard Google スライド</p> <p>【評】これまでに学習したことをもとに、自分なりの課題解決策を考えることができたか。</p>

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 3 5 時間中の 14, 15 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・ホタテガイの学習や解剖・観察・活用の体験を行うことで、地元で盛んに行われているホタテガイ養殖や地元漁業者が協力している『つくり育てる漁業』について理解を深める。
- ・ホタテガイを取り巻く環境について学ぶことで、漁業や海への関心を高める。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 ホタテガイの生態と豆知識、養殖の仕方、高水温の影響について知る。</p> <ul style="list-style-type: none">・ホタテガイの名前の由来、なるほど。・ホタテの生産地が分かった。・ホタテガイの体の部位が分かった。・ホタテガイの表ってこっちなんだ。・ホタテガイの食べ物が分かった。・ホタテガイの生態を利用して養殖しているんだ。・水温が高いと死んでしまうね。・ホタテガイの赤ちゃんってすごく小さい。・いろいろな色や模様のホタテガイがあるね。 <p>2 ホタテガイの解剖体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none">・ホタテの心臓は小さいね。・ホタテにも胃や腸があるね。・生殖器の色がピンクのものと白っぽいものがあるね。・人の部位と似ている。・ホタテの目はたくさんあって、人の目とはちょっと違う。・いつも私たちが食べている部分の他にもたくさん部位があるね。 <p>3 ホタテガイの稚貝を使ったしおり作りをする。</p> <ul style="list-style-type: none">・稚貝の貝殻っていろいろな模様があるね。・小さいから並べるのが難しいけど、楽しいな。・オリジナルのしおりができた。・稚貝がしおりに活用できるんだなあ。稚貝の他の	<p>・学習に際しては、青森市水産振興センター職員と事前に打ち合わせを行う。</p> <p>・分かったことは、ワークシートに書きこませる。</p> <p>【評】ホタテガイの生態、養殖方法、海水温との関係について理解することができたか。 (ワークシート)</p> <p>・解剖に使う器具の使い方について教える。 (青森市水産振興センター職員)</p> <p>・生きているホタテガイを取り扱うため、手を挟まないようにするなど、安全に十分気を付けさせる。</p> <p>・ワークシートをもとに部位を確認しながら順序よく解剖させる。</p> <p>・詳しく見たい部位は、顕微鏡を使って観察する。</p> <p>・しおり作りの手順を説明する。 (青森市水産振興センター職員)</p> <p>・しおり作りは、作るだけでなく貝の模様や、ホタテガイの有効活用という視点をもたせる。</p>

<p>活用について考えてみたい。</p> <p>4 お世話になった人への感謝の言葉と振り返りを発表する。</p>	<p>【評】ホタテガイの養殖に携わる人々の工夫や苦勞・努力について理解を深め、ホタテガイの養殖について自分の考えをもつことができたか。 (ワークシート)</p>
--	--

3. 今回の活動の自己評価

<ul style="list-style-type: none"> ・児童は、青森市水産振興センター職員の方の豆知識などのお話を興味深く聞いていた。陸奥湾にいる生き物を調べるという学習と結び付き、意欲的に取り組むことができた。また、職員の方と、ホタテガイの解剖・観察や稚貝でしおりを作るという体験活動に熱心に取り組み、ホタテガイの生態や活用についての理解を深めていた。 ・学習のまとめでは、Google スライドに学んだことをまとめ、発表会を行うことができた。 ・高水温の影響などの課題を見つけ、それを解決するために自分ができることを考えることができた。

4. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・身近な陸奥湾の恵みと課題を明確にし、地域の一員として何ができるか考え、実践させていきたい。 ・まとめについては、校内での発表会であったが、可能であれば青森市水産振興センター職員などお世話になった方々に向けた発表会ができるとよい。 ・学習した内容の軌跡が残り、学んだことを発信できるような掲示物等があればいい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

<ul style="list-style-type: none"> ・各種関係機関との連携が必要なため、連絡を密に行う必要がある。 ・外部機関を活用した学習の時期を早めに調整し、単元計画を立てる。 ・5学年で活用する場合は、社会科の「水産業のさかんな地域」の学習と関連づけて行くと、より効果的である。
--